Mizuho Weekly Market Report

2021/10/12
みずほ銀行東アジア資金部台北室

市場動向

■USD/TWD

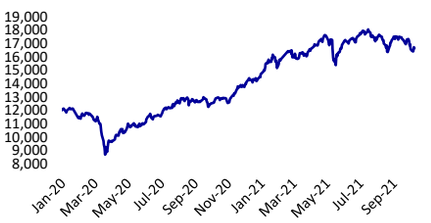
■USD/JPY

■JPY/TWD

■EUR/USD

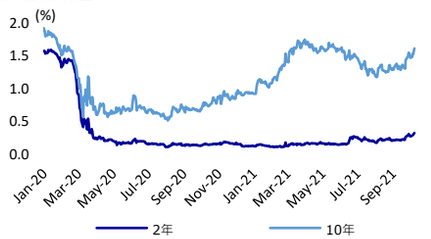
■USD/CNH

■台湾加権指数



■台湾国債利回り

■米国債利回り



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/4は27.820でオープン後、先週末軟調であった米株式市場の影響を受け台湾株も下落すると台湾ドル売りが優勢。更に、香港取引所で中国恒大集団の株式売買停止等から台湾株が下落し、ドルをサポート。しかし、輸出企業によるドル売りも入り、ドルの上値は比較的に限定的に留まった。こうしたドル売りが一巡後は再び買い戻され27.87付近で推移。その後、週後半に向け、世界的なインフレ圧力を意識した外国人投資家の海外送金の拡大が輸出企業のドル売り圧力を押さえる形で、ドルはさらに上昇し27.90台に乗せた動きとなった。また、米長期金利の高まりを受け、グロース株のバリュエーションに対する懸念が台頭し、ハイテク株を中心に台湾株も売り圧力が増加。リスク回避ムードによるドル買いが先行し、台湾ドルも海外市場に追随する形で、最終的には約2か月ぶりに節目である28を超え、28.046で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は340.7億台湾ドル。

■USD/JPY

先週のドル/円相場は週半ばにかけて上昇。週初米長期金利の反発を横目に111円台前半まで上昇するも、株価の軟調推移や米債務上限問題を巡る動向が嫌気され、ドル/円は一時週安値の110.82円まで反落した。週央は米長期金利や主要株式指数の上昇に加え、米9月ISM非製造業景気指数の良好な結果を好感し、ドル/円は111円台後半まで続伸。しかし、株価の急落を受けて111円台前半まで下落。その後は原油価格の上昇が一服し米株が上昇に転じる中、111円台半ばまで持ち直した。その後は米9月雇用統計を控え様子見で小幅上昇にとどまった。週末注目された雇用統計は市場予想を大きく下回る結果となり、発表直後はドル売りで反応。しかし、前回値が上方修正されたほか、失業率が予想以上に改善したこともあり、その後は米金利が再び1.6%を目指す動きにドル/円は112円を回復。その後もじわじわと上昇し、年初来高値112.08円、2020年高値112.23円も上抜け、112.26円まで上昇し、112.22円でクローズ。

今週の見通し

■USD/TWD　予想レンジ：28.020-28.160
コロナ感染による影響が徐々に弱まり、国際的なインフレ圧力が継続する中、先進国の中銀が金融政策の正常化に向け動き出す可能性から、新興国通貨に対しドルは比較的に堅調に推移すると予想。また、こうした状況を受け、台湾の輸出業者も様子見スタンスをとる可能性が高く、台湾ドル安となりやすいだろう。

■USD/JPY　予想レンジ：112.00-114.50
コモディティ価格の上昇で、インフレ期待の高まりを受け、ドル買い優勢の展開はしばらく続くだろう。しかし、今週から米企業による決算シーズンが始まり、米株動向にも注意する必要も。

今週の予定

10/11 (MON)	台湾国慶節振替休日
10/12 (TUE)	
10/13 (WED)	米9月消費者物価指数
10/14 (THU)	米新規失業保険申請件数
10/15 (FRI)	米9月小売売上高

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようにお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。